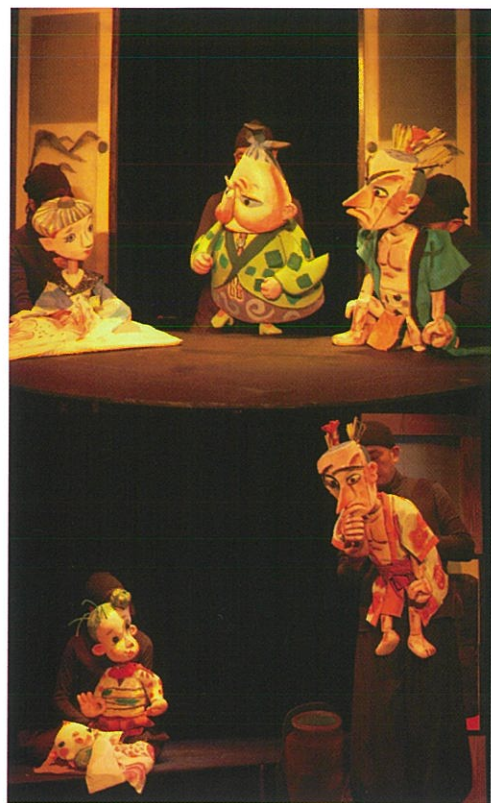


死神

脚色・演出／柴崎喜彦
美術／宮本忠夫
装置／児玉真理
音楽／高橋久美子（日本音楽集団）
音響効果／吉川安志
江戸言葉指導／八光亭春輔
あらずじ

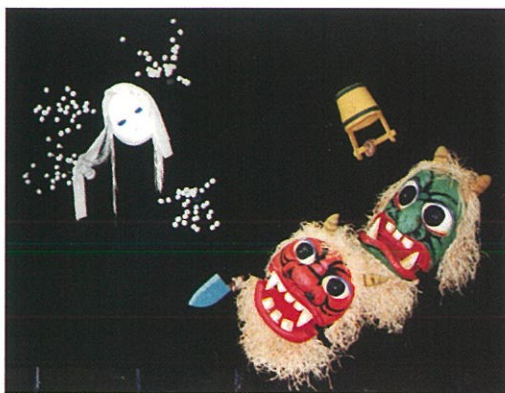
「ついてねえ、ついてねえ…」と賭け事にあけられる貧乏薄幸の男のところへ、ひよんなことに死神が現れた。
「おめえさん、医者になってみえか?」
男は、死に取り憑かれた重病人たちを言われたとおり治していき、瞬く間に大金持ちへ。
生活は一変し、横柄厚顔無恥へと変貌します。やがて金も全て失った男は、もう一度死神の元へ…。そこで死神がはなつた言葉は…。



「運と不器用と幸せと…」
脚色・演出 柴崎喜彦

時折思う。人生というものは、シナリオに縛られていて、あがいたところで運を持てている奴には敵わないのではないか。持つてゐる奴は幸せに、持つてない奴はそれなりに…。仏教では、「縁起」ということを説き、例えば現在の幸、不幸は、過去世あるいは現世での良い悪い行ないの結果だと解される。人生は因果律によつて支配され、努力やあがきではどうしようもないもの…。運を持つてないものは、幸せにはなれないのだろうか…。
人間は不器用だ。生きることも死ぬことも、自分の意思だけでは自由にいかないこともある。同じく不器用な人形たち。自分の意志では1ミリも動けない。だからこそ、そんな人形たちで不器用な人間たちを描いていきたい。軽妙に、ユーモラスに。人形たちの多様に変わらぬ表情が、舞台の上ではきつと心の動きを魅せてくれる。持つていなくともあがいた人間模様を魅せてくれる。

人形日本風土記



「継承し、上演し続けること」
構成・演出 岸本真理子

『人形日本風土記』は、劇団を長きにわたり牽引し数多の作品を生み出した川尻泰司が「北から南へ連なる日本列島の自然と、そこに営まれる民衆の生活の詩を舞台化した!」「スメタナが音楽によつて祖国を歌ったように、いや、それに負けない作品を、人形によつて描き、語り、歌う組曲を創りたい!」と構想を練つて創られた、幻想的舞台照明によつて展開する「目でみる詩」です。

私が、その作者の熱い想いを深く受け止め、演出を引き継ぐと心に決めたのは、東日本大震災の直後、長い歴史を積み重ねてきたものが全て無くなってしまった光景を目の当たりにし、日本人の心の拠り所を考えるようになっていたからでした。私は先人たちが四季折々に、民族的行事やお祭りに託してきた「心の財産」を、この『人形日本風土記』の芝居を上演し続けることで継承していきたいと、強く思っています。そして、日本の美しい四季が温暖化によつて「二季化」しているのではないかとされる今、現代の日本を生きている私たちに託された責任の重さを感じずには入れません。

作／川尻泰司
構成・演出／岸本真理子
人形デザイン／川尻泰司
美術／佐久間弥生
音楽／長沢勝俊

あらずじ

南北三〇〇キロメートルに横たわる日本列島の島々、その民衆の生活と民族の心をうたいあげた人形と音楽で織りなす心豊かなファンタスティック・バラエティーです。

「二人三番叟」
「江戸のお囃子」
「なまはげ（東北）」
「かつばどん弥五郎どん（九州）」
「田遊び（関東）」

〈出演者〉



大橋友子



滝本妃呂美



柴崎喜彦



市橋亜矢子



栗原弘昌



亀井佑子



勝二春陽



佐藤翔太

〈共通スタッフ〉

照明／阿部千賀子
舞台監督／栗原弘昌
制作／石田伸子

人形劇団プーク

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-12-3 ☎03-3370-3371 ✉puppet@puk.jp
🌐https://www.puk.jp/ 📧@pukichichibi 📺@puppet_theatre_puk

